

6

千代田区景観まちづくり重要物件

日比谷高校資料館・正門・塀

指定日 2003（平成 15）年 6 月 9 日

所在地 永田町二丁目 16 番 1 号

設計者 不詳

竣工 1916（大正 5）年

文化財等
指定状況

▲日比谷高校正門

歴史・文化的特徴

日比谷高校は、1878（明治11）年に東京府第一中学として創設され、戦前・戦後を通して多くの人材を輩出した名門校です。遅刻坂（新坂）は明治10年代にできた坂で、昇り切ると右側が日比谷高校、左側がメキシコ大使館なので、毎朝高校や官庁へ急ぐ人がカバンを抱えて駆け上がったことから命名されました。

資料館は元村井邸の美術品収納倉庫だった建物で、高校の百周年記念事業として整備され、資料館として現在も使用されています。年に1度の学園祭の時には内部が公開されます。

意匠・構造の特徴

資料館は白いタイル仕上げとなっています。土蔵を思わせる構成で、道路沿いの立面は、リズムカルに並べられた切妻破風と軒樋が白い壁を太く縁取り、窓の配置、縦樋のアクセントが巧みなデザインです。アールヌーボーの移植で有名な武田五一が関与したと言われてい

ます。正門は、明るい色の赤レンガに白い花崗岩の帯をまわし、大学の門に匹敵するような格調高いものとなっています。



▲資料館の外観

周辺景観との関係

明治期に煙草王と呼ばれ、後に村井財閥を興した村井吉兵衛の邸宅だった場所です。周辺にはメキシコ大使館や日枝神社、衆参議長公邸があり、緑の多い場所です。急な坂道を見下ろす資料館は、坂道の印象を強めています。